

VCBの重要性とは

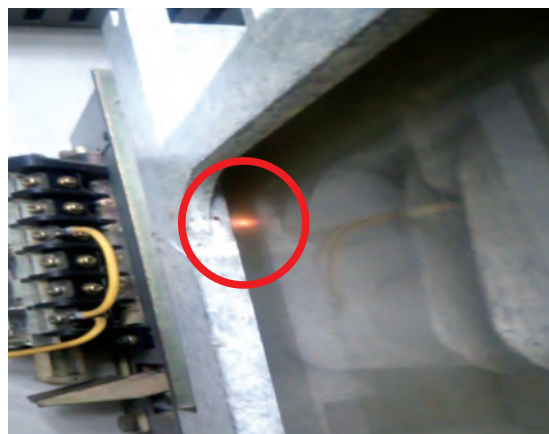
VCBは電気を「入」「切」する機器です。また、保護継電器(OCR、GR)などと組み合わせることにより、高圧電気設備で漏電(地絡)やショート(短絡)などの異常発生時に電気を「切」にする重要な働きをします。経年劣化等で異常時に自動で「切」にできず、周辺一帯を停電させる「波及事故」につながる可能性があります。



計画的な更新で事故を防止

VCBの更新推奨年は20年です。経年劣化が進み絶縁が低下することで突発事故につながる恐れがあります。

VCBは波及事故を防止する重要な機器です。点検の結果や更新推奨年を目安に早めの更新をお願いします。電気主任技術者と相談のうえ、適切な時期に設備更新を行ってください。また、専門業者による定期的なメンテナンスをお願いします。

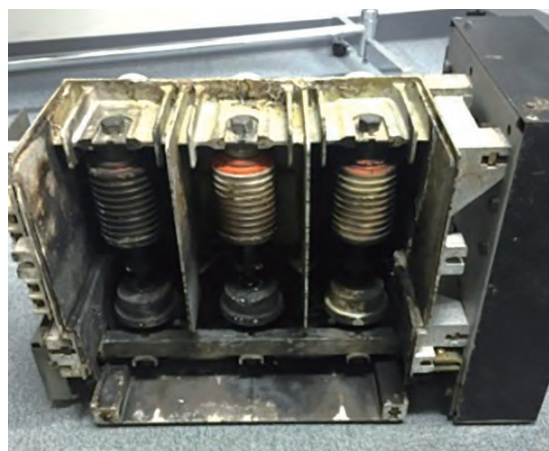


絶縁の低下により火花(放電)が発生

VCB劣化による事故

- 発生日時：2017年9月13日
- 発生場所：関東地方
- VCBの製造年：1995年製（製造から22年経過）
- 事故原因：

5年前の年次点検から、絶縁の低下傾向があり、降雨による湿気で更に低下し、絶縁破壊に至りました。結果、当事業場は事故発生から復旧まで約13時間かかりました。



絶縁破壊(焼損)に至った VCB